

にんぎょうとうげ



発行：国立研究開発法人日本原子力研究開発機構
バックエンド研究開発部門

人形峠環境技術センター 総務課

岡山県苫田郡鏡野町上齋原1550番地

電話 0868-44-2211 FAX 0868-44-2502

HPアドレス <http://www.jaea.go.jp/04/zningyo/index.html>

平成28年度 事業報告

人形峠環境技術センター（以下「センター」という。）は、平成28年度も安全確保を最優先に、施設・設備の廃止措置及び廃止措置関連技術開発等を進めてまいりました。

また、これらの事業内容については、正確な情報発信に努めるとともに、地域社会との共生に努めました。平成28年度のセンターの実施状況は以下のとおりです。

1. 事業（開発・研究等）に関すること

1. ウラン濃縮原型プラントは、遠心分離機などの設備の内部に滞留しているウランの回収作業を終了しました。
2. 製錬転換施設は、ウラン廃棄物の安全かつ適切な管理のため、過去に廃棄物を充填し保管していたドラム缶型専用容器中の内容物の詰替え並びに廃棄物のインベントリ調査及びウラン量の測定等を継続しました。
3. 濃縮工学施設は、ウラン濃縮試験に使用した主要設備の解体・撤去工事を継続しました。また、解体し除染した遠心分離機の部品について、第3回クリアランス確認検査を受検するとともに、クリアランス確認を受けた部品をテーブル&ベンチの部材として再利用しました。廃液処理により発生した中和澱物の処理に係る基礎試験を継続しました。
4. 鉱山関連施設は、安全かつ適切な維持管理を継続しました。鉱さいたい積場上流部の跡措置工事の効果を検証するため、モニタリングを継続するとともに、今後の措置に必要な調査・検討を継続しました。

5. センター各施設、設備及び廃棄物の安全かつ適切な管理を継続しました。

6. 今後の事業計画案として、廃止措置を着実に進めつつ、地域や国際貢献を行うための仕組みである「ウランと環境研究プラットフォーム」構想を公表しました。

7. 東京電力(株)福島第一原子力発電所の事故の収束に向けた対応として、環境修復の技術開発やコミュニケーション活動等への人員派遣の支援を継続しました。

2. 安全確保・環境保全に関すること

1. 「業務・品質マネジメントシステム」は、内部監査等の実施により適正な運用を継続し、安全確保、法令遵守を徹底しました。
2. 計画的なエネルギー管理、省資源を推進し、地球温暖化防止等の環境に配慮した事業活動を継続しました。

3. 地域・社会への対応に関すること

1. 地域産業であるウランガラス製造の原料提供等の地域振興への支援、説明会等への対応、広報紙の配付等を継続し、地域との積極的なコミュニケーションを図り、地域社会との共生に努めました。
2. 地元大学、高専、鏡野町との環境シンポジウム開催等による連携協力の強化、地元民間企業との交流を図り、産学との連携交流の推進を継続しました。
3. インターネットホームページ等を活用し、センター事業内容の紹介、研究開発成果及び環境モニタリングデータ等の情報公開を継続して実施し、適時、分かり易い情報発信により、地域社会の理解と安心の向上に努めました。

（計画管理室）

第9回「環境・エネルギーシンポジウム」を開催

3月10日に岡山大学創立五十周年記念館にて、岡山大学・津山高専・人形峠環境技術センターとの共催で、第9回「環境・エネルギーシンポジウム “ウランのふる里人形峠の歩み”」を開催しました。各機関から以下の5つの講演が行な

われ、専門家だけではなく一般の方にも興味深く分りやすいシンポジウムとなりました。

（計画管理室）

- ① 人形峠事業所の60周年の歩み、これまでの歴史紹介（原子力機構）
- ② 地史的時間の中で自然と調和して存在しているウランの挙動（岡山大学）
- ③ 地層から読み取れる吉備高原や人形峠の大昔の景観（岡山大学）
- ④ 津山高専の地域における取り組み（津山高専）
- ⑤ ウランと環境研究プラットフォーム事業構想（原子力機構）



原子力機構講演の様子

シリーズ 人形峠の歴史を振り返る

～第6弾 地域の方々から寄せられた人形峠の思い出と期待することを紹介～

砂田 邦夫氏

(鏡野町 上齋原在住)

【思い出】

10代の頃はバイクで高清水高原のキャンプ場の清水が湧き出るところまで良く走って行った。当時の高清水高原は、津山-倉吉間の路線バスの停留所/休憩所になっており、茶店や食堂、土産物屋で繁盛していた。あの時に茶店で飼われていた「ハンザキ」(オオサンショウウオ)が、今でも展示館前の水槽で生きているのは驚きである。

高清水高原の登山口近くに、原子燃料公社の事務所や寮があり、また、池合川を挟んで社宅や購買部があって、特に購買部は食料品などの品揃えも豊富で良く買い物に行っていた。

昭和50年頃から、人形峠に関わる仕事をしていた、鉾山施設のトロッコ軌道や鉾巻山にあった鉾石の計量器の解体を請



負ったのが最初だった。その後、昭和54年に濃縮パイロットプラントの運転が始まると、急速に工作関係の依頼が増えてきた。

パイロットプラントや原型プラントの建設から運転の時代は、職員ばかりでなく人形峠に出入りするメーカーも多く、当時は恩原湖畔ロッジに日立さんが常駐していて、日立さんや他のメーカーさんからの工作依頼も多くあった。また、上齋原も多くの人で賑やかな時代だった。

【人形峠に期待すること】

我々は人形峠とともに暮らしてきた。人形峠の将来計画として、これから20～30年掛けて施設を解体して後始末をしていくような話を聞くが、我々の子供や次の世代まで人形峠に関係した仕事ができるようにして欲しい。

また、施設の解体とか後始末とか聞くと、将来性を感じられないため、人形峠に何か新しい魅力を感じるような仕事を持ってきてくれることを望みます。

小掠 勤氏

(鏡野町 上齋原在住)

【思い出】

当時の原子燃料公社は、父親も姉も勤めており身近な存在だった。

子どもの頃は、峠の社宅や中津口の飯場に同級生が多くいて、池河グランドでの大運動会に参加したり、坑道のトロッコに乗って遊んだり、高清水高原キャンプ場では、付近の木の枝を切って小屋を作ったりと、人形峠周辺で遊んでいた思い出が多い。また、囲炉裏の火がはせて目を怪我したことがあったが、人形峠のジープで倉吉の病院までは運んでもらった事もある。

人形峠に関わる最初の仕事は、坑道を支える坑木を納品に行ったのを覚えている。その後は、原産の仕事で、車両の運転に関する仕事に就いて、サイドダンプで鉾石を鉾巻山の精錬所まで運搬していた。昭和の時代は、自力で冬期の除雪をやっており、豪雪時には、家から歩いて人形峠まで行って、朝一



番に重機で構内を除雪していた。かんじき履いて早朝3時位から2時間歩いたこともあり、大雪が続くと辛かった。施設が運転していて活気があった時代は、会社の色々な行事も数多くあって、事務系職場合同の課内旅行に行くなどと楽しかった思い出も多い。

現在は「鏡野語りの会(かじか)」で地域の昔話を語る活動をしており、多いときは月10回程度、施設などで講演している。上齋原は、蜂の大王の伝説など昔から伝わる民話が多いので、これからも色々なところで広く紹介していきたい。

【人形峠に期待すること】

地域からの雇用確保を続けて欲しい。また、開発試験棟や濃縮パイロットプラントが次々と建てられたころは期待感があったが、あの時のような新しい仕事を呼び込んで欲しい。

何か、新しい研究を始める計画があると聞いているが、ウラン鉾石が発見されたときのように、人形峠の名前が、もう一度、世界で注目されるよう期待する。

吉川 元春氏

(鏡野町 上齋原在住)

【思い出】

昭和34年に原子燃料公社に入社した。当時は採鉾や鉾石試験の仕事に携わっていて、中津口や恩原立坑に繋がる坑道や峠内の掘削現場でのコンプレッサーの運転や機器の補修管理をやっていた。その後、試験製錬から製錬転換にかかる仕事に就いて、平成元年に退職した。

入社当時の事業所は、高清水に事務所や男子寮、女子寮などがあり、池河川に沿って社宅や購買部があった。事務所は総務課と技術課があったのを覚えている。その後、当時は草原だった池河川のほとり(現在の総合管理棟前の駐車場付近)に事務所を移転して、道路を挟んだ池河会館との間に診療所もできた。

原子燃料公社の時代は、地域や家族が一体となったイベント



があって、高清水高原から事業所の中へ滑って降りるコースを作ってスキー大会を開催したこともあった。高清水まで上るのに、スキー組とかんじき組で競争して、かんじき組が勝ったのを覚えている。

また、ダンスパーティーや運動会なども地域ぐるみでやっていて、地元から多くの人に来てくれて繋がりも深かった。

【人形峠に期待すること】

地域の方は、人形峠の中で何をしているのか良く分からないので、昨年公表した新しい事業構想の中身を色々な機会に話をしたい。また、新しい事業構想は、これからの50年、60年先を見据えて将来計画を立てたとのことだが、地元で暮らす者は、今が大切なので、今やるべきことや、今どんな課題があり、それをどうしたらいいかという事を話して欲しい。

上齋原地区は昔から人形峠事業所と共存して支えてきた。この繋がりを大切にしたい。